

3. <事例1>自動運転フォークリフトを利用した物流拠点およびトラック消費エネルギー削減実証事業／大和ハウス工業株式会社

事業概要

- 物流センターの“入荷”と“出荷”に着目し、積卸し業務への自動運転フォークリフトの活用による課題の解消
- 発着荷主間のデータ連係を実現することで、トラック待機時間の削減等を図る

事業スキーム		事業者情報	業界(輸送品目)	建築(日用品・生活用品)
【取組前】			申請者 (従業員数)	代表:総合建築・住宅メーカー (約48,483名) 共同:製造・販売(約33,409名) 輸送事業者(約24,201名) 物流運営・企画(約278名)
		導入システム 及び機器	共通システム:共通データ基盤 輸送効率化機器: ①フォークリフト制御システム ②自動運転フォークリフト ③デパレタイズ ④スワップボディコンテナ	作業の自動化が進まず人手不足が深刻化。情報連携が不十分で、サプライチェーン全体の可視化が困難。計画精度や運営時間の制約が効率化の妨げとなっている。
		従前の 物流課題	補助対象経費:357,345,820円 補助金の額: 178,672,910円	0.243MJ/t・km (6.1%)
		事業費※	※事業費は交付決定額	
		エネルギー 消費削減量(率)		